

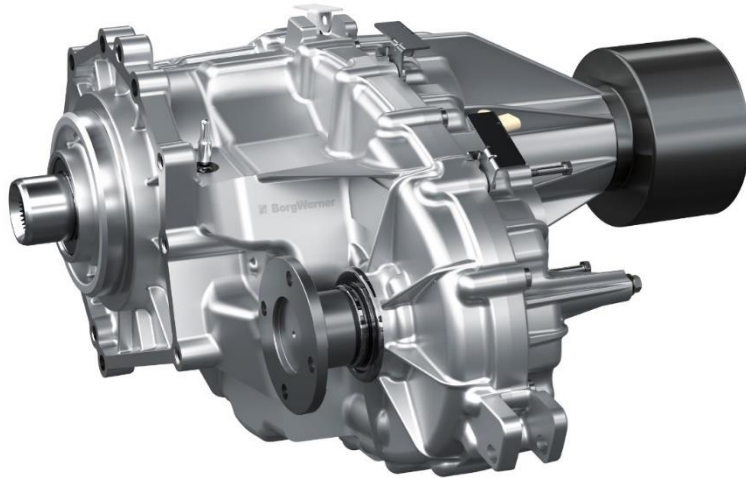
ボルグワーナー、日産自動車製SUVおよびピックアップ用 トランスファーケースを供給

- ボルグワーナー韓国工場から初めて日産に供給されるトランスファーケース
- 日産ナバラおよびパラディンの動力性能などのパフォーマンス向上に貢献
- 同システムは、反応速度が早く、滑らかで正確な変速を実現

ボルグワーナー(本社:アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者:フレデリック・リサルド/Frédéric B. Lissalde)は日産自動車(以下日産)が生産するピックアップトラックのナバラおよびSUVのパラディン向けに高耐久型のパートタイム・トランスファーケースを供給する契約を締結しました。これにより、ボルグワーナーは初めて日産にトランスファーケースを供給することとなり、同社との既存のビジネスを大きく発展させることとなります。このトランスファーケースは走行中でもハイ・ローの切り替えが可能で、電動モーターにより、ドライバーは異なる駆動モード間を素早く、滑らかに、また正確に変速することが可能です。

パートタイム・トランスファーケースには、二駆ハイ、四駆ハイ、四駆ローを含むさまざまな走行モードがあります。通常、舗装された乾燥路面では二駆ハイ・モードが使用され、積雪地や平地のオフロードなどを走行する際は四駆ハイが選択されます。また、四駆ローは凹凸の激しいオフロードや急勾配の上り下りに使用されます。ボルグワーナー製トランスファーケースの高度なソリューションにより、あらゆる走行モードで優れた性能を発揮し、ドライバーが二輪駆動と四輪駆動を切り替えることが走行中でも可能です。本トランスファーケースは騒音・振動・ハーシュネス(NVH)が低く抑えられており、路面状況に関わらず優れたドライバビリティを実現します。また、二輪駆動と四輪駆動の切り替え時間が僅か0.7秒以下、ハイ・ロー切り替えも1秒以下です。質量を最適化するため、ケースやカバーはアルミダイキャスト製となっており、優れた検知能力と高い機能安全性により、ガソリン、ディーゼルいずれの内燃機関との組み合わせにも適しています。

ボルグワーナー・トランスミッション・システムズの社長兼事業本部長のフォルカー・ウエング博士は「ボルグワーナーの定評のあるトランスファーケース技術を日産のさまざまなプラットフォーム向けに供給する機会を得たことは大変名誉なことです。全輪駆動ソリューションを開発してきた経験を生かすことにより、弊社は動力性能などのパフォーマンスを引き上げるパートタイム・トランスファーケースを提供することができます。この分野でのコラボレーションは日産とは初めてのことであり、今後も優れた技術、高い品質や付加価値などを提供することにより、日産のビジネスに貢献していきたいと思っております」と述べています。



**ボルグワーナーは、ピックアップトラックのナバラおよびSUVのパラディン向けに
高耐久型パートタイム・トランスファーケースを日産に供給します**

ボルグワーナーについて

ボルグワーナー(NYSE: BWA)は、内燃機関、ハイブリッド及びEV向けのクリーンで高効率な技術ソリューションを有する世界有数の企業です。OEM向け純正品で培ったノウハウを活かし、グローバルアフターマーケット市場にもトップクラスの製品やサービスソリューションを提供しています。世界24カ国99カ所に生産・開発拠点をもち、全世界でおよそ48,000人の従業員を雇用しています。詳細については、borgwarner.comをご覧ください。

本プレスリリース(以下、本「リリース」)に記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく、1995年米国私募証券訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、歴史的な事実に関する記述を除く、本リリースに含まれる、または言及する形で盛り込まれた当社の財務状況、事業戦略、当該戦略を実施するための手段などに関して、将来起きる、または起きる場合があると当社が期待する、または見込むあらゆる記述は、将来予測に関する記述です。その例として、業務の変更、競争上の強み、目標、当社事業および業務の拡大と成長、計画、将来の成功に関する言及などがあります。当社の2019年12月期のForm 10-K 年次報告書(以下、「Form 10-K」)の第7項「重要な会計方針(Critical Accounting Policies)」で記述されたものはじめとする会計上の試算は、本質的に将来予測です。すべての将来予測に関する記述は、歴史的な動向、現在の状況、期待される将来の進展、当社がそれらの状況下で適切と考えるその他の要因に関する当社の経験と知見を踏まえた当社による仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄と著しく異なる場合があります。

これらの将来予測に関する記述は、本リリースの発行日における事柄を述べたものであり、過度に依存すべきではありません。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予見困難かつ一般的に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄とは著しく異なる実際の結果をもたらす可能性があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、COVID-19/新型コロナウイルスに関連する事態が及ぼす影響の範囲および期間に関する不確実性(さらなる製造停止等)、2020年10月1日に完了したデルファイ・テクノロジー社の買収から期待される利益の不実現、取得した事業の迅速かつ効果的な統合の不実施、取得した事業に関連する未確認または推測不可能な債務の可能性、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右される)への当社の依存性、大手OEM顧客への当社の依存性、商品の入手可能性および価格、供給停止、金利の変動および外貨の為替レートの変動、与信枠、主要経営陣への当社の依存性、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性、さまざまな損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における関税など将来の法規制の変更、直近のForm 10-Kの第1A項「リスク要因(Risk Factors)」など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスク(感染症の大流行や検疫等)が挙げられます。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる出来事、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中井、佐藤
TEL: 03-3571-5326 FAX: 03-3574-0316
EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp